

宝木だより

第24号

発行 宝木地区まちづくり協議会

(宝木地域コミュニティセンター内)

TEL・FAX 028-624-0531

宝木ぶらり⑥

宝木町の地名となつた「宝の木」



国立医療センター（旧国立栃木病院）の正門（写真左上）を入ったすぐの右手に「宝木」の町名の由来となつたと言われる高さ約10メートル・周囲約1メートルの常緑針葉樹の大木が植栽されている。木の脇に掲げられた名札には

木樹名 宝の木

学名 児手柏（コノテカシワ）

推定樹齢 約450年以上

などとあり、その由来が書かれている。本木は、寛文十年（1670年）頃、今より約三百五十年前、現在の宝木町1丁目に六軒と呼ばれた集落の大塚と称する塚の上に植えてあつたものという。

当時の地元民にとつて木の種類も分からぬ珍しい木であるところから宝の木として親しまれていたのである。

その時代この地域一帯は宇都宮藩の西方にあるところから西原と呼ばれていたが水利の悪い地帯であつた。この不毛の地に新田開発が行われ、入植者により六軒をはじめ西岡、細谷、山崎など十の集落ができ、これを総称して「西原十ヵ新田」といわれた。本紙「宝木だより21号」で述べたように一八五九年宝木用水の完成により人々の暮らしは楽になつた。そして、明治八年西原十ヵ新田がまとまり宝木村とした。件の宝の木にちなんだのである。では宝の木がなぜ現在の国立医療センターにあるのか？

明治四一年陸軍一四師団の一部が国

本村宝木の地に駐屯し司令部が現在の医療センターの地に設置された際、地元住民の喜びは想像に難くなく、その祝とに司令部の庭木に彼の「宝の木」を寄付移植されたもので、百十年後の現在も雄々しい姿を見せてている。

戦後軍は解体され司令部跡が国立病

院（現在の医療センター）になったという次第である。本木はヒノキ科の常緑針葉高木で、原産地は中国の北部。現在流通しているもののほとんどはコノテガシワの園芸品種で低木のセンジユ（千手）である。

（注）明治二三年 町村制施行により、宝木、戸祭、野沢、岩原、新里の五力村が合併し日本村となる。なお、塚があつたといふ六軒の集落は、現在の一の二自治会の地域で、その自治会の集会所を「六軒公民館（写真左下）」と称しその名を残している。

十一分団優勝 市消防操法大会



6月3日市屋板運動公園で開催の市消防操法大会において2年ぶりに見事優勝を飾りました。十一分団は常に上位入賞しており、出初め式では優秀分団として表彰されている。

分団長 鳥居克一
指揮者 山本和紀
2番員 本澤恒明
4番員 遠藤孝典

1番員 山本雅之
3番員 本澤和典
吸管補助員 国田 功

地域のふれあい

宝木まつり



十一月十一日宝木まつりを開催しました。まつりは、自治会は勿論各種団体の屋台の出店、交通安全や、環境・健康管理をテーマとするブース、そして子供の遊び場などを設けました。心配された天候も穏やかで暖かく、近年にない賑わいを見せました。特に子供たちの遊び場ではストラッグルアウトが後を絶たず、また、交通安全教室では、身体機能測定器を使用して反射神経推定年齢を測定するものに高齢者が参加する等それぞれのブースで活気が見られるなど、人との触れ合い交流の機会となりました。



十一月十一日宝木まつりを開催しました。

まつりは、自治会は勿論各種団体の屋台の出店、交通安全や、環境・健康管理をテーマとするブース、そして子供の遊び場などを設けました。

心配された天候も穏やかで暖かく、近年にない賑わいを見せました。

特に子供たちの遊び

場ではストラッグルアウトが後を絶たず、また、

交通安全教室では、身

体機能測定器を使用し

て反射神経推定年齢を

測定するものに高齢者

が参加する等それぞれ

のブースで活気が見ら

れるなど、人との触れ合い交流の機会となりました。

本年も陽西・宝木中生徒40名がボランティア活動として祭りの支援にきていただきました。前日の準備そして当日も会場づくりや運営そして各ブースへ支援など飛び入りの活動もありました。

更に陽西中生よさこい踊りは、祭りを盛り上げる「テモストレーヨン」として今年も2度

出演しました。



中学生ボランティア ありがとう

地域のふれあい

宝木まつり

西が岡小児童15名によるエイサー踊りが披露されました。エイサー踊りは沖縄の伝統的なお祭りを西小向にアレンジしたもので、小太鼓の調子に合わせて踊る賑やかなそして楽しませてくるもので大変好評でした。



小学生も初参加

優勝	宝木町2の2
準優勝	細谷自治会
第3位	西中丸
敢闘賞	東中丸



体育祭は、勝敗も大切ですが、それ以上に楽しいスポーツの祭典ということで事故もなく、和やかに行われました。

宝木地区体育祭が、秋晴れの10月8日宝木小グランドで行われました。地区内の小中学校の4校の校長先生のご列席をいただき、地区住民約1000名が集い、自治会対抗による競技やオーブン競技などが繰り広げられました。

地区体育祭

宝木地区体育祭が、秋晴れの10月8日宝木小グランドで行われました。地区内の小中学校の4校の校長先生のご列席をいただき、地区住民約1000名が集い、自治会対抗による競技やオーブン競技などが繰り広げられました。



宝木小6年生が今秋に開催の市民百人一首大会小學生の部で準優勝を獲得しました。

百人一首競技かるたは、比較的のなじみが薄いことからその魅

力を知つて頂こうと、宇都宮かるた会から読手を招き解説を得ながら、出場した8名の児童が競技かるたの実技を披露しました。

見事な払い手など初めて見るその競技姿に、観客から大きな拍手をいただきました。

万が一のときに備えて

地区防災訓練



9月3日宝木小学校において約300名が参加し実施しました。訓練は、地震発生時の自分の身を守る訓練（本文中写真）から始まり、避難訓練、心肺停止者に対する心臓マッサージ、消火器の使い方、土のう造り訓練など実際にやってみることを主眼にした訓練を行いました。

宝木地区は大きな河川や山もなく比較的安全とわれている地域ですが、火災、地震、竜巻などはいつ起ころか分かりません、せん、



土のう造り訓練

住宅への浸水などを防ぐための土のう造りを体験しました。



心肺蘇生訓練

突然心肺停止になったとき、数分以内の心臓マッサージに大切です。



消火訓練

火災は初期活動が大切です。有事に備え消火器の設置と使用法取得しましょう。



敬老会 いつまでもお元気で

敬老の日の9月18日1800余名の方がこの日を迎えたが、地区社協・自治連は、健康の森で敬老会を開催しました。

主催者あいさつの後、児童を代表し西が岡小神園希らさんがお祝いの言葉（写真）として、可愛がってくれている祖父母とのふれあいから、お年寄りを大切にする思いを話され皆さんとても心を打たされました。

アトラクションは、「とちぎ未来大使」「方言作家」としてテレビ、ラジオで御馴染みの嶋均三さんを迎えてトークショーを開きました。嶋さんは、祖母と過ごした子供のころの生活ぶりなどを栃木弁爽やかに方言で語り笑いを誘い、また会場を爆笑させ楽しいひと時を過ごして頂きました。

わがらが自治会の誇り・自慢 2

宝木町一一三自治会

●通学路の安全にパトロールと防犯カメラの設置

宝木小学校を地域に持つ私たちの自治会は、常に登下校する子供たちを見ており安全な通学を願っています。そこで自治会で話し合い新学期からはシニーアクラブの方々が毎日下校時間の付き添いを行い、更に市・警察と協議の上防犯カメラ8基を設置しました。防犯カメラはその名通り、

犯罪の予防・抑止に期待されています。



姿勢で被害を最小限に抑えるため日々心に備えが大切です。

コンパクトシティのまちづくりってなあに

市は、人口減少や超高齢化社会を迎えるにあたり、ネットワーク型コンパクトシティ（市が目指す将来のまちの姿）を実現するため、地区別に説明会を開催していますが、当地区は10月14開き、自治会役員など40名が聴講しました。市担当者からコンパクトシティを目指す背景・考え方、そして実現に向けた取り組み、更に宝木地区の将来像について説明がありました。

宝木地区は、大谷街道、新里街道、

団地路線など基幹バス路線には恵まれているが、超高齢化を迎えて、山崎街道を利用した地域医療拠点施設へ接続するバスの運行計画などを示され、参加者から地



んだ成果であり、慰労と今後の一層の活躍を期待しております。



輪投げ大会

出場選手

部長	丸山 真亮
指揮者	丸山 真亮
1番員	菅 勝彦
2番員	天谷 俊彦
3番員	加藤 貴夫
吸管補助員	栗田 尚男

第3回まちづくり輪投げ大会が10月28日開催されました。当日は台風のため順延となつた宝木小学校の運動会と重なり、試合中は孫のかけっこを見られない方もおりましたが、大会とはいえ終始和やかな雰囲気の中で行われました。

回を重ねるにつれ輪投げの技術も向上し、今回の優勝チームは実に506点と高得点でした。



環境点検

優勝 西中丸
準優勝 宝木地区細谷
第3位 東中丸

消防操法大会小型ポンプの部において城山分団第10部（西・東中丸地域）は、第3位入賞しました。
2か月半に及ぶ早朝訓練に団員一丸となつて取り組みました。

城山分団第十部 第三位入賞

域交通（テマンドバスなど）問題など質疑があり意義ある研修・説明会になりました。

非行防止と健全育成を目的とした、市民総ぐるみ環境点検に宝木地区まちづくり協議会構成団体等から80名が参加し実施しました。

7月8日午後約1時間にわたり活動され、改善を必要とする箇所を摘出し、市に報告するなど改善を進めることにしました。

わくわく子供たちの料理教室



あとがき

本年の三大行事である防災訓練、体育祭、宝木まつりが無事催行されました。本年も1ヶ月余となりましたが、平穏に過ごされました。これを祈念しております。（あ）



コニセソ講座の筆である地区内の小学3年から6年生を対象にしたわくわく広場では年間10回の各種講座を開いております。10月には育成会の協力を得て料理教室を開きました。今回は「バナナ小豆のクリーム巻」を作りましたが、一寸不思議な組み合わせと思われたようですが、とてもおいしく、楽しいひと時を過ごせました。